

知的障害と肢体不自由がある小学生の体育科と音楽科における事例

小学校知的障害特別支援学級に在籍する知的障害と肢体不自由を併せ有する児童の体育科と音楽科を中心とした交流及び共同学習

○概要

本事例は、知的障害特別支援学級に在籍し、知的障害と肢体不自由を併せ有する、小学2年生のA児についての事例である。A児は、言葉の理解の遅れや平仮名の読み書きの難しさ等、発達全般に大きな遅れがある。また、左右の視力がアンバランスなことや姿勢保持ができてにくいことから、少しの段差でつまずいたり、転んだりする。A児が参加する交流及び共同学習で、教材の工夫等を行うことで、交流学級での授業内容や形態、方法が少しずつ変わり、A児が授業に参加しやすくなった。また、A児が交流学級の児童とたくさんの関わりをもつことで、交流学級の児童とA児の間に、自然な関わりがみられるようになった。さらに、交流学級の担任との連携を大切にし、授業の初めや終わりに交流学級の担任もA児と関わる時間を設けることで、交流学級の担任もA児について理解する良い機会となった。

1. 対象児童について

A児は知的障害特別支援学級に在籍し、知的障害と肢体不自由を併せ有する、小学2年生の児童である。平仮名の読みは自分の名前を含み10文字程度は可能であるが、平仮名で書くことは難しい。話し言葉については、大人が話す簡単な言葉は理解できるようになってきたが、使える語彙数は少ない。不明瞭な発音をすることがあるため、言葉での意思疎通には時間を要する。数は、3までの数唱はできるが、1対1対応は難しい。左右の視力のアンバランスさから、視界の範囲が狭く、周りの状況判断が困難である。姿勢保持に弱さがあり、坂道歩行や階段の昇降等には、安全面の配慮が必要である。身辺自立においては、手先の巧緻性の弱さがあるため衣服の着脱や水道の蛇口の開閉等に時間がかかり、常に介助を要する。

2. 活動のねらい

音楽と体育については、交流及び共同学習として通常の学級で学んでいる。通常の学級での学習は、通常の学級担任の指導の下、特別支援学級担任と合理的配慮協力員のどちらかがA児に付いて、個別の言葉掛けを適宜行い、具体物やモデルを提示することにより学習への意欲がもてるようにしている。

体育では、通常の学級に在籍する児童と同じ活動を全て一緒に行うことが難しいため、体育の時間の始めに行う準備運動を共に活動して、体育の時間の終わりにはA児が参加し、担任からA児がこの時間に学習した内容について発表している。音楽の授

業は、A児が不安を抱えたまま授業に参加しないように、単元によって導入部分はA児の担任が主となって授業を行い、その間、交流学級の担任がA児の指導や支援を行う等、支援体制を工夫しながら授業を進行している。

3. 事前の取組と配慮

A児の障害特性等に対する理解を深めるために、A児の特別支援学級での様子を校内掲示板等で知らせている。また、交流学級の児童には、A児の特別支援学級での学習の様子等についてのビデオを見せている。このほか、通常の学級の児童が、特別支援学級の児童を身近に感じ理解できるように、休み時間に特別支援学級を開放する等、A児と通常の学級の児童と一緒に過ごせる時間を設けている。

また、交流及び共同学習を実施する際、通常の学級の担任と特別支援学級の担任が、児童に適した支援について情報交換している。B小学校の校内研究で、通常の学級の授業の目標の中に、A児のねらいをどのように組み込ませるかについて検討している。

4. 活動の様子と成果

A児が使用する教材・教具を、A児が理解しやすいよう工夫している。例えば、鍵盤ハーモニカには、「ド」のみ赤いシールを貼ったり、交流学級の児童と同じ速さで鍵盤ハーモニカを演奏することは難しいと考え、A児の実態を踏まえて簡便にした楽譜を用意したりした。

運動会の種目の一つである、集団演技の練習では、最初に集団演技のDVDを視聴し、A児が、集団演技の流れが理解できるようにした。また、事前の学習では教員の動きを模倣する練習を繰り返し行った。これらによって運動会当日は、A児1人で演技することができた。

市内合同学習発表会では、市内の3校が合同で劇を演じた。A児の配役は、コックさんの役で、交流学級の児童とA児でペアを組んで協力して演技した。A児の劇中の動きについては、動きのパターンが決まっている方が、A児にとって分かりやすいことを他校の教員にも伝え、劇の台本を変更した。

また、A児は左右の視力のアンバランスから、右目にアイパッチを装着しており、視界が狭くなっている。そのため、提示する物は大きめに作成し、提示する場所を左側にして、A児が周囲の安全を確保できるように配慮している。

通常の学級の担任と特別支援学級担任で、交流及び共同学習におけるA児の目標を共有し、上記のような配慮を話し合い行うことで、A児の授業参加が促進されたと考えている。

5. 事後の取組、今後の課題

交流及び共同学習のねらいや内容について、さらなる見直しを行う必要があると考

えている。そのためには、A児の学習上または生活上の困難さや、学習状況等についての情報交換を、通常の学級の担任と特別支援学級の担任でさらに頻繁に行う必要がある。